びゃくどうかいたいかい
白道会大会

去る八月二十七日～二十八日、蔵本通支坊において白道会大会が開かれました。今年は、日本医師会生命倫理懇談会の委員であり、お酒「忘憂」の生みの親でもある鍋島直樹先生をお招きしてお話を聞きました。

公開講演会では約140名の参詣者で満堂になった。

「われ今幸いにまことのみ教を聞いて、限りなきいのちをたまわり…」、お経の前にいつも私たちはこと言葉を口にしますが、この「限りなきいのち」とは一体どういう意味でしょうか？「死なないこと」でしょうか。

限りないいのちをたまわるとは、限りないいのちの仏、阿弥陀仏に私たちが出遇うということです。「限りないいのちの仏」とは、「死んでしまった過去の仏さま」ということではなく、ずっといっしょ、今も私といっしょ、いつもいっしょの仏という意味です。そのことは、仏さまの慈悲の心を意味します。先生は、そのことについて、平野恵子さんという方のことをご紹介くださり、分かりやすくお話くださいました。平野さんは、三十九歳でガンの告知を受け、そしてお亡くなりになったそうですが、以下は三人のお子さまに残された言葉です。

鍋島先生（写真左）。父王を殺し、母をも殺そうとした罪悪感に苦しむ王子アジャセの救いについて、人間相関図を使ってお話くださいました。

「元気でいられる間は、ご飯を作り、洗濯をして、できるだけ普通の母親でいること、徐々に動けなくなったら、素直に動けないからと頼むこと、そして、苦しいときは、ありのままに苦しむこと、それがお母さんにできる精一杯のことなのです。そして、死は、多分、それがお母さんからあなた達への最後の贈り物になるはずです。人生には無駄なことは何一つありません。お母さんの病気も、死も、あなた達にとって、何一つ無駄なこと、損なこととはならないはずです。大きな悲しみ、苦しみの中には、必ずそれと同じくらいのいや、それ以上に大きな喜びと幸福が、隠されているものなのです。たとえその時は、抱えきれないほどの悲しみであっても、いつか、それが人生の喜びに変わるときが、きっと訪れます。深い悲しみ、苦しみを通してのみ、見えてくる世界があることを忘れないで下さい。そして悲しむ自分を、苦しむ自分を、そっくりそのままささえていてくださる大地のあることに気づいてください。それがお母さんの心からの願いなのですから。お母さんの子どもに生まれてくれて、ありがとう。本当にありがとう。本当にありがとう。」

「お母さんはいつも思います。与えられた平野恵子という生を尽くし終えた時、お母さんは嬉々として、「いのちの故郷」へ帰ってゆくだろうと。そして、空気となって空へ舞い、風となってあなた達と共に野を駆け巡るだろうと。緑の草木となってあなたたちを慰め、美しい花となってあなた達を喜ばせます。また水と

なって川を走り、大洋の波となってあなた達と戯れるのです。時には魚となり、時には鳥となり、時には雨となり、時には雪となるでしょう。「無量寿＝いのち」とは、すなわち限りない願いの世界なのです。そして、すべての生きものは、その深い「いのちのねがい」に支えられてのみ生きてゆけるのです。」（『こどもたちよありがとう』）

先生は、「私たちのいのちは限りがあります。しかし、限りあるいのちは、限りあるいのちで終わってしまうのではないんです。限りあるいのちを深く自覚したとき、限りなきいのちに輝いてゆくのです。「無量寿＝限りないいのち」とは、すなわち限りない願いの世界なのです。死を超えたまことの愛情、限りない願いの世界、それがお念仏であり、浄土であると彼女は実感したんだと思います。このことに出遇い、そしてこの道を生きるとき、死してもなお続いてゆく、限りないいのちに私たちのいのちが変わってゆくのです。このことを限りなきいのちになる、限りなきいのちをたまわる、と浄土真宗では教えてきました。」とお話くださいました。

お知らせ

西辰川地区世話人、日留田紀子さんが、体調不良のため退任されました。しばらくは、同地区世話人村高千彩子さんが兼任されることになりました。日留田さん長い間ありがとうございました。

夏休み仏の子の集い

龍谷大学伝道部夏季巡回　安楽寺・明円寺・西教寺合同

去る八月二〇日、恒例の仏の子夏の集いが蔵本通支坊で行われました。

人形劇で盛り上がる仏の子。

けんかをしてしまう黒豚のクロちゃんと狐のコン太くん

カレーの後はスイカ割りと花火。意外とスイカが割れません。みごと命中したのはなんと今年のビンゴで西教寺賞をゲットした河崎くん。

（→写真右）呉地区更正保護女性会の紙芝居「おばあの朝ごはん」。合言葉は「まごわやさしい」。「ま」は豆類、「ご」はゴマ。ちゃんとご飯食べてますか？

夕方からはオプション参加。飯盒炊さんでカレー。普段したことのない薪割りにみな大興奮。心配したご飯も上手に炊けました。みんないっしょに「いただきまーす」